

企画名称 (講演タイトル)	東洋大生がワークショップで学ぶSDGs「SDGs ゴール1 “貧困” ってなんだろう？ ～日本での子育てとキャリア、ミャンマーこども支援の経験から～」
講師	講師：甲野 綾子さん (NGO SOSIA 代表)
開催期間・日時	2021年2月25日(木) 11:00～13:00
会場	zoomによるオンライン開催
目的	・身近なものと社会問題とのつながりを知る。 ・SDGsについて関心を深めるきっかけをつくる。
参加者数	23名 (内訳：学生18名、教員1名、オブザーバー1名、ボランティア支援室スタッフ3名)
協力	

活動内容(概要)

ボランティア支援室ではSDGs推進の一環として、学生がSDGsについて知り身近な問題として関心を深めるための学びの場を提供しています。本ワークショップは、初めてSDGsを学ぶ学生を対象とした学びの場として、今年度5回目の開催となりました。今回は、講師としてNGO SOSIA代表の甲野綾子さんにお越しいただきました。

今回のワークショップは、SDGsのゴールでも1番目に定められている「貧困」をテーマに行いました。近年では、「こども食堂」の取組みが全国的に展開されるなど、国内でも「貧困」「こどもの貧困」という言葉を意識することが多くなっています。また、今回の新型コロナウイルスの感染拡大による社会の歪は、大学生の暮らしにも大きな影響を及ぼしました。ワークショップでは、そうした日本国内の「貧困」のリアルを知るとともに、世界的にも貧しい国と呼ばれてきたミャンマーでの「貧困問題」について学ぶことで、「貧困」とは何か？ということに改めて問い直す回となりました。

ワークショップの中では、まず参加者それぞれが「貧困」の持つイメージについて共有し、甲野さんからの講義を聞いた後でそのイメージがどう変わっていったか、新たに気付いたことをシェアしあいました。日本の貧困問題として、甲野さん自身のこれまでの体験やこども食堂での取組みの話からは、「貧困問題は海外の問題だと思っていた。」「貧困とはお金が無いことだと思っていたけど、経済的な面だけでなく“心の貧困”もあることに気付いた。」などの感想が共有されました。この日本でも本当に身近なところに「貧困」の問題はあること、そして、経済的な苦しさだけでなく精神的な生きづらさが、日本における貧困問題には潜んでいることに気づかされました。

後半ではミャンマーでの貧困問題について、甲野さんのSOSIAでの活動を中心にお話いただきました。最貧国と言われてきたミャンマーでは、こどもたちの進学率の低さやそれゆえの将来の選択肢の少なさなど、日本には無い深刻な問題が見える一方、ボランティア精神・助け合いの文化については先進国であるということを知りました。話を聞いた学生からは、「お金の問題だけが貧困問題とは限らないと思った。」「貧しい環境でもミャンマーのこどもたちの幸せそうな笑顔に考えが変わった。」など、当初の「貧困」のイメージを大きく変える学びとなりました。

日本とミャンマーという異なる2つの国の「貧困」についてその実際を知ることにより、漠然としていた「貧困」のイメージがリアルになるとともに、「経済的貧困」だけではない貧困の側面を参加者との対話を通じて深めることができました。また、ボランティア先進国であるミャンマーの国民性から、今の日本に足りないものは何なのかを考えさせられる時間となりました。

SDGs に掲げられているゴールの1つ1つは大きなテーマばかりですが、こうして実際の社会でどんな問題が何故起こっているのかを知り、自分自身の体験や暮らしに引き寄せて考えることがとても大切です。こうした学びの場を今後も創っていきたいと思います。

